

5月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
令和8年4月24日

「再会、そして子どもたちの成長に触れて」

校長 西里 俊文

2年ぶりに、懐かしい八戸第二養護学校に戻ってまいりました。

さて、始業式の式辞の中で、私は子どもたちに「元気なあいさつ」と「明るい笑顔」をお願いしました。「皆さんの笑顔には、周りの人を元気にする魔法の力があります」とお話ししたのです。

毎朝、登校時に玄関前に立っていると、子どもたちは素敵な笑顔であいさつをしてくれます。大きな声で応える子、ニコッと微笑む子、手を振ってくれる子、少し恥ずかしそうに顔を向けてくれる子。それぞれのかたちで伝えてくれるあいさつに、私の方が元気をもらっています。この時間は私にとってたまらなく幸せなひとときであり、毎日子どもたちに会えるのがうれしくて仕方ありません。

今回、2年間本校を離れていたからこそ、改めて気付いたことがありました。それは、以前はスクールバスから降りるのに時間を必要としていた子どもたちが、今は扉が開くと同時に、元気よく降りてくる姿です。

2年前の様子を鮮明に覚えている私にとっては、その力強い足取りに目を見張るような成長を感じ、深い感動を覚えました。離れていた期間があるからこそ発見できた、子どもたちの確かな歩みです。

日々の学習を積み重ね、一步一步、着実に成長している子どもたちの姿を目の当たりにし、心からうれしく思うとともに、その歩みを今年度も全力で支えていきたいと決意を新たにしております。

